

私は、今年の八月五日と六日に広島へ平和体験学習に行きました。広島を訪れたのは今回が初めてでした。普段テレビで見ている原爆ドームや平和公園、たくさんの方々の原爆に関する資料などを初めて自分の目で間近に見て、私の中の戦争・原爆のイメージが変わりました。テレビで見るときは本当になにげなく資料や当時の映像を見ていたけど、自分で見たときは、原爆の被害の大きさや悲惨さをまじまじと思い知らされました。資料の中には、当時のお弁当やカバンや服などがそのままの状態に残されていて、それらを見たときは本当にショックを受けました。資料館内には被爆者の方々が当時のことを話されている映像が流されていました。私は二人の方の映像を見て、物の資料とはまた別の思いが伝わってきました。原爆ドームは本当に骨組しか残っておらず思っていた以上に残酷なものでした。その近くを流れる川は当時はたくさんの方が亡くなった状態で水と共に流れていたとき、「今はこんなに美しい川なのに。」と少し信じられませんでした。

翌日の平和式典では多くの人がいて、その中には外国の方もたくさんいておどろきました。式典中、たくさんの方が原爆、平和について語っていて、「やはり平和が一番だ。」と改めて思いました。

私は今回の体験で、戦争・原爆の悲惨さ、残酷さを感じると共に、平和の大切さも強く感じました。普段、今の平和な世の中で生活していて、戦争を知らない私たちにとって、実際に広島へ行き、実際の資料、映像を見たりすることによって、少しでも多くの知識を得て、戦争の事をよく知ることができた今回の体験は、これからの私にとっても良い経験になりました。今回の平和体験学習に参加することができてよかったです。

私は、原爆投下から今年八月六日で七十年目となった広島を訪れ、原爆ドームと広島平和記念資料館の見学、平和式典への参加をさせて頂きました。

広島平和記念資料館に入った瞬間言葉を失いました。自分の想像をはるかにこえるひさささだったからです。全身火傷で皮膚が垂れ下がったり、ガラスが突きささり死んでいく子供。家の下じきになり、燃えながら「助けて」と泣きさけぶ声が聞こえてきそうでした。たった一発の原爆で多くの人々が命をおとし、また、後遺症で苦しみ続けるのです。すべて見学し終わった後、無差別に人を殺す原爆が許せなくなりました。

毎日あたりまえに学校に通ってあたりまえに勉強できていることがどんなに幸せかよく分かりました。幼いころに被爆し、亡くなってしまった人のことを思い、今私達にできることは「戦争」から目をそむけず、しっかりと知り、風化させないことだと思います。

日本だけでなく世界の人々が平和に暮らせる日があることを願います。

